

草垣群島上ノ島の観察鳥類記録

中間 弘*・小倉 豪**

The report of the observed birds on Ueno-shima Island, Kusagaki Islands, Kagoshima Prefecture
Hiromu NAKAMA · Takeshi OGURA

はじめに

草垣群島の鳥類に関しては、環境庁（1973）、鹿児島県環境局自然保全課（1975）、日本野鳥の会研究部テクニカルチーム（1983）、鹿児島県保健環境部環境管理課（1987）、鮫島（1998）、山元ら（2003）、鹿児島県環境技術協会（2003）などに記述がみられる。とくに上ノ島はオオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* およびカツオドリ *Sula leucogaster* の重要な繁殖地として知られ、国指定草垣島鳥獣保護区草垣島特別保護地区にも指定されている。さらに渡り時期を中心に数多くの種が記録されており、これまでの文献等によれば40科146種が記録されている。

今回は「触れ見る知る自然資料収集整備事業」の一環として、草垣群島上ノ島に2003年7月30日および31日に上陸する機会を得たので、そのときの状況を簡単に報告する。なお、本報告で使用する鳥類の分類および種の学名・和名については日本鳥学会（2000）に、また、草垣群島の緯度経度および標高等に関しては国土地理院発行2万5千分の1地形図（平成13年11月1日発行草垣群島）に従った。

1 調査地の概要

草垣群島（鹿児島県川辺郡笠沙町片浦）は野間半島の南西約90kmの東シナ海上に位置し（図1）、上ノ島、中ノ島、下ノ島およびこれらに属する岩礁により構成されている（図2）。このうち上ノ島（東経129°30′，北緯30°50′）は最も北東に位置し、南北約0.7km，東西約0.5km，面積約0.21km²，標高130.6mを最高点とする群島中最も大きな無人島である。

島の地質は安山岩と凝灰角礫岩であり、植生は島の中央部にはモクタチバナ *Ardisia sieboldii* を優占種とする灌木林が存在し、その周辺部はハチジョウススキ *Miscanthus condensatus* を優占種とし主にメヒシバ *Digitaria ciliaris* やヒゲスゲ *Carex oahuensis* によって構成される草地である。海岸部は切り立った崖になっている（迫 1978，日本野鳥の会研究部テクニカルチーム 1983）。上ノ島最高点付近には灯台およびヘリポートが設置されている。灯台には以前は職員が滞在していたが、1981年4月以降無人化されている。今回の上陸期間中には灯台施設の太陽光発電化に伴う改修工事が実施されていた。

* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

** 〒891-5201：鹿児島郡十島村中之島131-644

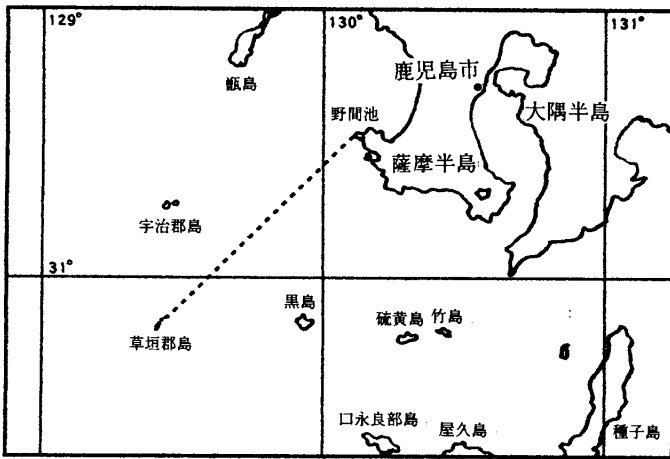


図1 草垣群島の位置

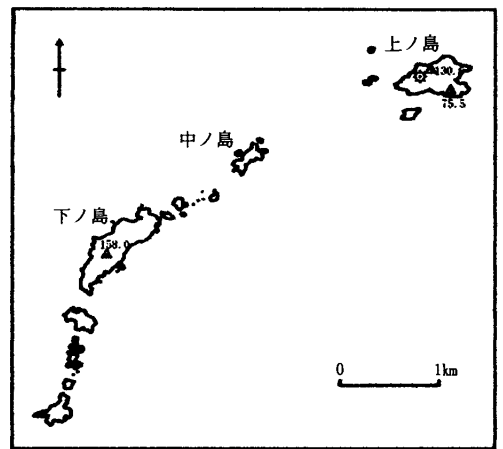


図2 草垣群島

2 観察結果および考察

今回、上ノ島では繁殖鳥類に関する知見を得ることを主な目的に観察を行なったが、島内で確認できた鳥類の種数は少なく、オオミズナギドリ、カツオドリ以外の種については個体数も少ない印象を受けた。上陸期間中に確認された鳥種は、オオミズナギドリ、カツオドリ、ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*、アマサギ *Bubulcus ibis*、コサギ *Egretta garzetta*、ハヤブサ *Falco peregrinus*、タカブシギ *Tringa glareola*、イソシギ *Actitis hypoleucos*、ツバメ *Hirundo rustica*、キセキレイ *Motacilla cinerea*、ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* の12種であった。

上ノ島でのオオミズナギドリの生息数等に関して、環境庁(1973)は使用中の新しい巣穴の数を約144,000個と推定している。この推定数は上ノ島の総面積を123ha、うち利用可能な林野面積を50haとして算出されているが、実際の上ノ島の総面積は約21haで明らかな誤りである。実際の面積に基づき、利用可能な林野面積を約41%の8.61haとして同様の方法で計算し直すと、巣穴数は24,624.6個となる。一方、日本野鳥の会研究部テクニカルチーム(1983)は、ほぼ同様の方法で、巣穴を掘ることのできる地域において確認できたすべての巣穴について、1aあたり平均 47.61 ± 10.24 個、総巣穴数を約39,900個、カツオドリの使用巣密度は1aあたり 1.20 ± 0.56 個、総使用巣数は 604 ± 284 個と推定している。

ただし、オオミズナギドリに関しては仮に巣穴数を正しく把握することができたとしても、その巣穴数から営巣数や生息数を推定するのは困難であると考えられる。また、カツオドリに関しても繁殖期間が長期にわたることから、繁殖期間を通しての調査なしには繁殖数や生息数の把握は困難であると思われる。

今回オオミズナギドリに関しては、船着き場から灯台までの舗装道路約500mにわたり片側2.5m以内の巣穴のカウントを行い、304個の巣穴が確認された。巣穴内の状況については詳しく調べていないものの、道路脇の巣で卵をいくつか確認したのみで少なくとも雛は確認できなかった。さらに、同区間で夜間オオミズナギドリを捕獲し61羽に足環を装着した。捕獲した個体はすべて成鳥であった。このほかに2002年10月14日に性不明成鳥で放鳥された、9A-67943

の環境庁の足環着き個体も捕獲されている。

カツオドリに関しては、巣内に1卵もしくは2卵の卵が見られたものもあったが、いくつかの巣では放棄されたもあり、抱卵中の成鳥はほとんど観察されなかった。巣内の幼鳥の数は少なく幼綿羽の個体も見られたものの明らかに巣立ち間近のものが多く、繁殖の最盛期という印象は受けなかった。

このほか、上ノ島では過去にトビ *Milvus migrans* の営巣も確認されている(所崎私信, 鹿児島大学資料)が、今回の調査では確認できなかった。さらに、上ノ島ではシマセンニュウ *Locustella ochotensis* (当時の日本鳥学会の鳥類目録(日本鳥学会1974)ではウチヤマセンニュウ *L. pleskei* は *L. ochotensis* の一亜種として扱われている)の記録が夏期にあるが(野鳥の会研究部 1983), もし仮に繁殖していたとすれば、既知の分布域や生息環境などから推測してこの記録はウチヤマセンニュウである可能性が高いと考えられる。今回の上陸期間中にウチヤマセンニュウは確認されず、島内に生息するクマネズミ *Rattus rattus* による卵の捕食などにより個体群が消滅した可能性も考えられる。

メジロ *Zosterops japonicus* に関しては、今回の上陸期間中には確認できず、これまでも夏期に観察記録はない。しかし、非繁殖期に基亜種メジロ *Z. j. japonicus* とともに亜種シマメジロ *Z. j. insularis* と思われる個体が標識調査中に捕獲されており(小倉未発表), 今後、繁殖についての情報を収集する必要があると思われる。

今回観察された種のうちヒヨドリ, ハヤブサ, ハシブトガラスに関しては既知の分布や繁殖環境などから推測して繁殖の可能性も考えられるが、繁殖に関する具体的な情報は得られなかった。このほかの種については、繁殖に参加していない個体が越夏, もしくは繁殖地からすでに移動・分散してきたものであろうと考えられる。

おわりに

上ノ島では少なくとも1972年の時点でクマネズミもしくはその他のネズミ類の生息が確認され(環境庁 1973), 卵や雛の捕食など海鳥類の繁殖に与える影響がすでに指摘されている(例えば環境庁 1973, 野鳥の会研究部 1987, 鮫島 1998)。今回の上陸期間中にもネズミ類が頻繁に観察されており, 何らかの対策が必要であろう。

海鳥類の生息数や繁殖数については, そもそも正確に把握することが困難なこともあってその推移については不明な点が多いが, 今後は調査方法を検討して継続的にモニタリングする体制作りが必要であると思われる。

謝辞

環境省自然保護事務所の森一弘氏, 鹿児島県庁の梶井勲氏, 第一幼児教育短期大学教授鮫島正道氏には資料収集の際に便宜をはかっていただき, 所崎聡氏・高垣勝仁氏には貴重な情報および資料を提供していただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。

引用・参考文献

- 鹿児島県環境局環境保全課，1975，鹿児島の野鳥．鹿児島県
- 鹿児島県保健環境部環境管理課(編)，1987，鹿児島の野鳥．鹿児島県
- 鹿児島県環境技術協会，2003，平成14年度国設草垣島鳥獣保護区調査データ整理業務報告書．環境庁，1973，特定鳥類等調査．
- 日本鳥類目録編集委員会(編)，2000，日本鳥類目録改訂第6版．日本鳥学会，帯広
- 日本鳥学会，1974，日本鳥類目録改訂第5版．学研，東京
- 迫静男，1978，草垣の植物．鹿児島植物同好会会誌，鹿児島の植物No.4，8-13.
- 鮫島正道，1998，草垣島国設鳥獣保護区調査報告．鹿児島県環境技術協会
- 日本野鳥の会研究部テクニカルチーム，1983，草垣群島におけるカツオドリとオオミズナギドリの調査．Strix 2，67-75.
- 山元幸夫・中間弘・溝口文男，2003，草垣群島上ノ島の自然調査概要報告〔草垣群島における10月の鳥類観察記録〕．鹿児島県立博物館研究報告，22，70-72.

付表 草垣群島で観察された鳥類のリスト (40科146種)

このリストは，過去の文献および資料から草垣群島およびその周辺海域で観察された鳥類の記録(亜種の記録を含む)をまとめたものである。各文献の記録については，写真などの客観的資料の有無などに係わらず，基本的にそのまま採用した。ただし，一部の亜種などについては，明らかに野外で識別することが困難なものも含まれていることから，詳細については各引用文献をあたり各自で判断していただくことが望ましい。

付表中の引用文献番号対応一覧

- 1：環境庁，1973，特定鳥類等調査。
- 2：鹿児島県環境局環境保全課，1975，鹿児島の野鳥．鹿児島県
- 3：日本野鳥の会研究部テクニカルチーム，1983，草垣群島におけるカツオドリとオオミズナギドリの調査．Strix 2，67-75.
- 4：鹿児島県保健環境部環境管理課(編)，1987，鹿児島の野鳥．鹿児島県
- 5：堀浩明・所崎聡・渡辺啓文・尾関信幸，1987，草垣群島において観察された鳥．鹿児島大学野鳥研究会，(未公表資料)
- 6：川路則友・阿部淳一・高良武信・溝口文男・松下義範・沼秀昭・今村克行，1987，鹿児島県産鳥類目録．Strix 6，20-31.
- 7：鹿児島県保健環境部環境管理課(編)，1989，鹿児島のすぐれた自然．財団法人鹿児島県公害防止協会，165-166
- 8：迫静男1989，草垣島鳥類調査．鹿児島県(未公表資料)
- 9：所崎聡・渡辺啓文・清水正俊・甲斐博文・江崎正裕，1991，草垣群島上之島で観察した鳥類。

- 10：鮫島正道，1998，草垣島国設鳥獣保護区調査報告．鹿児島県環境技術協会
- 11：所崎聡・山元幸夫，1999，鹿児島県産鳥類リスト．鹿児島県立博物館研究報告，18，21-42.
- 12：山元幸夫・中間弘・溝口文男，2003，草垣群島上ノ島の自然調査概要報告〔草垣群島における10月の鳥類観察記録〕．鹿児島県立博物館研究報告，22，70-72.
- 13：鹿児島県環境技術協会，2003，平成14年度国設草垣島鳥獣保護区調査データ整理業務報告書.

和名，学名等の誤りや誤植および変更により訂正すべきものについては日本鳥類目録編集委員会（編）（2000）に従い適宜訂正を加えた。なお，この目録では，トビについて *lineatus* を *M. migrans* の1亜種として，コノハズクについて亜種 *japonicus* を *O. sunia* ではなく，それらとともに *O. scops* の1亜種として，オオコノハズクについては *ussuriensis*, *semitorques*, *pryeri* を *O. lempiji* の亜種として，ヒバリについては *japonica* を *A. arvensis* の1亜種として，イワツバメについては *dasypus* を *D. urbica* の1亜種として，ハクセキレイについては *lugens* を *M. alba* の1亜種として，サンショウクイについては *tegimae* を *P. divaricatus* の1亜種としてそれぞれ扱っている。エゾムシクイについては以前は *tenellipes* の1亜種として扱っていたが，*borealoides* を独立種としている。

文献8および10，13に関しては，目録より現地調査での確認鳥種のみを抜き出した。ただし，それ以外の種で過去の文献に見られないものについては別途抜き出した。

文献3には上ノ島においてゲンカンドリ *Fregata sp.* の観察記録がある。一方，文献4にはコゲンカンドリ 1980.7.24 草垣島という記述があり，観察日からおそらく同一の個体であろうと考えられるが，写真の有無や同定の経緯については不明である。

文献4のマダラチュウヒの記録は青木一夫（1975）マダラチュウヒ．野鳥 40巻7号：346 による1973.4の記録を引用したものであるが，文献2および7，11もおそらく同一の記録である。

文献4のツバメチドリは草垣群島年不明5月上旬（成鳥夏羽写真），日本の野鳥（山と溪谷社）から引用したものであるが詳細は不明である。

文献8のウミスズメおよび亜種ツメナガセキレイ（キマユツメナガセキレイ），セッカの記録については平成元年度の調査時の記録ではなく，目録中に過去の記録として掲載されているが，把握できている過去の文献には記録がなく詳細については不明である。

文献4のブッポウソウ1937.5.9-10（正しくは1937.5.9-17）の記録については，引用文献である野鳥4巻97月号および野鳥4巻7月号の紀藤の記述を読む限りは，おそらくコノハズクである可能性が高いと思われる。

文献12には2002年10月環境省実施の国設鳥獣保護区の現地調査の際に記録されたものうち17種についての記述もあるが，その記録については文献13中に報告があるので採用しなかった。ただし，セグロセキレイについては後者には記録がなく，少なくとも調査に参加していた筆者の一人も現地では確認していないが，今回は敢えてリストから除外することはしなかった。

文献6のマミジロタヒバリの記録は観察地は草垣群島とあるのみだが，文献5の上ノ島の記録

と観察日が一致することから同一のものと思われる。

文献3のシマセンニュウの記録については、ウチヤマセンニュウも当時の日本鳥学会の鳥類目録（日本鳥学会1974）ではシマセンニュウの一亜種として扱われており、もし仮に繁殖していたとすれば、既知の分布域や生息環境などからウチヤマセンニュウである可能性が高いと思われる。

文献6のマキノセンニュウの記録は観察地は草垣群島とあるのみだが、文献4の上ノ島の記録と観察日が一致することから同一のものと思われる。

文献4および5ではエゾムシクイの学名を *Phylloscopus tenellipes* (亜種については記述なし) として扱っているが、これは当時の日本鳥類目録改訂5版に従ったものと考えられる。ここでは *borealoides* であったものと仮定して、日本鳥類目録編集委員会(編)(2000)に従い *P. borealoides* として扱った。

文献12表中のメジロの学名は *Zosterops erythropleurus* となっており、種小名が和名と対応していないが、和名にしたがい *japonicus* として扱った。

文献13の亜種ツグミの記録については添付資料の目録から引用したが、それ以前の文献4, 7, 8, 9などには種ツグミとしての記録は見られるが亜種ツグミとしての記録は確認できない。

付表

科名 及び 種名・学名	出現地と参考文献の番号 (K=上ノ島, N=中ノ島, U=不明)
ミズナギドリ科 Family PROCELLARIIDAE 1 オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i>	K 1,2,3,4,5,7,8,9,10,13
カツオドリ科 Family SULIDAE 2 カツオドリ <i>Sula leucogaster</i> 亜種カツオドリ <i>S. l. plotus</i> 3 アオツラカツオドリ <i>S. dactylatra</i>	K 1,2,3,4,5,7,8,9,10,12,13, N*4 K 10 K 13
ウ科 Family PHALACROCORACIDAE 4 ウミウ <i>Phalacrocorax capillatus</i>	K8,9
グンカンドリ科 Family FREGATIDAE 5 コグンカンドリ <i>Fregata ariel</i>	U*4
サギ科 Family ARDEUDAE 6 ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i> 亜種ヨシゴイ <i>I. s. sinensis</i> 7 ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i> 8 ササゴイ <i>Butorides striatus</i> 亜種ササゴイ <i>B. s. amurensis</i> 9 アカガシラサギ <i>Ardeola bacchus</i> 10 アマサギ <i>Bubulcus ibis</i> 亜種アマサギ <i>B. i. coromandus</i> 11 ダイサギ <i>Egretta alba</i> 12 チュウサギ <i>E. intermedia</i> 13 コサギ <i>E. garzetta</i> 14 クロサギ <i>E. sacra</i> 15 アオサギ <i>Ardea cinerea</i> 16 ムラサキサギ <i>A. purpurea</i>	K 4,7 U*10 K 4,5,7,8,9,10 K 4,5,7,9 U*10 K 5,7 K 4,5,7,12 U*10 K 5,7,8,9,10 K 4,7,10 K 4,5,7,10,12,13 K 3,4,7,8,9,10 K 7,9,10 K 5,7

科名 及び 種名・学名	出現地と参考文献の番号 (K=上ノ島, N=中ノ島, U=不明)
コウノトリ科 Family CICONIIDAE 17 ナベコウ <i>Ciconia nigra</i>	K 4,7,11
カモ科 Family ANATIDAE 18 マガモ <i>Anas platyrhynchos</i> 19 カルガモ <i>A. poecilorhyncha</i> 20 オナガガモ <i>A. acuta</i>	K 9 K 9 K 9
タカ科 Family ACCIPITRIDAE 21 ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i> 22 ハチクマ <i>Pernis apivorus</i> 23 トビ <i>Milvus migrans</i> 24 オオタカ <i>Accipiter gentilis</i> 25 アカハラダカ <i>A. soloensis</i> 26 ツミ <i>A. gularis</i> 27 ハイタカ <i>A. nisus</i> 28 ノスリ <i>Buteo buteo</i> 29 サシバ <i>Butastur indicus</i> 30 マダラチュウヒ <i>Circus melanoleucos</i>	K 4,7,8,9,10,12 K 7 K 4,5,7,8,9,10,12,13 K 8 K 4,5,7,10 K 4,5,7,8,9,10,13 K 4,5,7,8,9 K 4,7,8,9,12 K 4,5,7,12,13 K 2,4,7,11
ハヤブサ科 Family FALCONIDAE 31 ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i> 32 チゴハヤブサ <i>F. subbuteo</i> 33 チョウゲンボウ <i>F. tinnunculus</i>	K 4,5,7,8,9,10,12,13 K 4,12 K 4,7,8,9,10,12,13
クイナ科 Family RALLIDAE 34 バン <i>Gallinula chloropus</i> 35 ツルクイナ <i>Gallinago cinerea</i>	K 7 K 4,7
チドリ科 Family CHARADRIIDAE 36 ダイゼン <i>Pluvialis squatarola</i>	K 4,7
シギ科 Family SCOLOPACIDAE 37 ハマシギ <i>Calidris alpina</i> 38 アオアシシギ <i>Tringa nebularia</i> 39 イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i> 40 ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i> 41 タシギ <i>Gallinago gallinago</i>	K 4,7,10 K 5,7 K 4,7 K 4,5,7,8,9,10,13 K 8
ツバメチドリ科 Family GLAREOLIDAE 42 ツバメチドリ <i>Glareola maldivarum</i>	U*4
ウミスズメ科 Family ALCIDAE 43 ウミスズメ <i>Synthliboramphus antiquus</i>	U*8
ハト科 Family COLUMBIDAE 44 カラスバト <i>Columba janthina</i> 45 ベニバト <i>Streptopelia tranquebarica</i> 46 キジバト <i>S. orientalis</i> 47 アオバト <i>Sphenurus sieboldii</i> 48 ズアカアオバト <i>S. formosae</i>	K 4,7,8,9 K 8 K 4,7,8,9,10,12 K 4 K 4,7
カッコウ科 Family CUCULIDAE 49 カッコウ <i>Cuculus canorus</i> 50 ホトトギス <i>C. poliocephalus</i>	K 5,7 K 4,7
フクロウ科 Family STRIGIDAE 51 トラフズク <i>Asio otus</i> 52 コミミズク <i>A. flammeus</i>	K 4,7 K 4,7,9

科名 及び 種名・学名	出現地と参考文献の番号 (K=上ノ島, N=中ノ島, U=不明)
53 コノハズク <i>Otus scops</i>	K 4,7,10,13
54 オオコノハズク <i>O. lempiji*</i>	K 10
55 アオバズク <i>Ninox scutulata</i>	K 4,5,7
ヨタカ科 Family CAPRIMULGIDAE	
56 ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i>	K 5,7
アマツバメ科 Family APODIDAE	
57 ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i>	K 5,7
58 アマツバメ <i>Apus pacificus</i>	K 4,5,7
亜種アマツバメ <i>A. p. kurodae</i>	K 4
ブッポウソウ科 Family CORACIIDAE	
59 ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>	K*4,5,7
ヤツガシラ科 Family UPUPIDAE	
60 ヤツガシラ <i>Upupa epops</i>	K 3,4,7
ヒバリ科 Family ALAUDIDAE	
61 ヒバリ <i>Alauda arvensis*</i>	K 4,7,8,9,10
亜種ヒバリ <i>A. a. japonica</i>	K 4
ツバメ科 Family HIRUNDINIDAE	
62 ショウドウツバメ <i>Raparia raparia</i>	K 5,7,10,12
63 ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	K 1,4,5,7,8,10,12,13
亜種アカハラツバメ <i>H. r. saturata</i>	K 7
亜種ツバメ <i>H. r. gutturalis</i>	K 5
64 コシアカツバメ <i>H. daurica</i>	K 4,5,7,8
65 イワツバメ <i>Delichon urbica*</i>	K 4,5,7,12
セキレイ科 Family MOTACILLIDAE	
66 ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>	K 5,7,12
亜種マミジロツメナガセキレイ <i>M. f. simillima</i>	K 7
亜種ツメナガセキレイ* <i>M. f. taiwana</i>	U*8
亜種キタツメナガセキレイ <i>M. f. macronyx</i>	K 4
亜種シベリアアツメナガセキレイ <i>M. f. plexa</i>	K 5,7
67 キガシラセキレイ <i>M. citreola</i>	K 5,7
68 キセキレイ <i>M. cinerea</i>	K 1,2,3,4,5,7,8,9,10,13
亜種キセキレイ <i>M. c. robusta</i>	K 2
69 ハクセキレイ <i>M. alba*</i>	K 4,7,8,9,10,12,13
亜種ハクセキレイ <i>M. a. lugens</i>	K 12
亜種ホオジロハクセキレイ <i>M. a. leucopsis</i>	K 4,7,12
70 セグロセキレイ <i>M. grandis</i>	K*12
71 マミジロタヒバリ <i>Anthus novaeseelandiae</i>	K 5,7,8,12, U*6
72 コマミジロタヒバリ <i>A. godlewskii</i>	K 5,7,11
73 ビンズイ <i>A. hodgsoni</i>	K 5,7,8,9,10,13
74 ムネアカタヒバリ <i>A. cervinus</i>	K 10
75 タヒバリ <i>A. spinoletta</i>	K 4,7,10
亜種タヒバリ <i>A. s. japonicus</i>	K 4
サンショウクイ科 Family CAMPEPHAGIDAE	
76 サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus*</i>	K 5,7, U*4
ヒヨドリ科 Family PYCNONOTIDAE	
77 ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	K 7,8,9,10,13

科名 及び 種名・学名	出現地と参考文献の番号 (K=上ノ島, N=中ノ島, U=不明)
モズ科 Family LANIIDAE 78 チゴモズ <i>Lanius tigrinus</i> 79 モズ <i>L. bucephalus</i> 80 アカモズ <i>L. cristatus</i> 亜種シマアカモズ <i>L. c. lucionensis</i> 亜種アカモズ <i>L. c. superciliosus</i>	K 5,7,11 K 7,8,9,10,13, U*4 K 5,7, U*4 K 5,7, U*4 K 5
ミソサザイ科 Family TROGLODYTIDAE 81 ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>	K 10
ツグミ科 Family TURDIDAE 82 コマドリ <i>Erithacus akahige</i> 83 ノゴマ <i>Luscinia calliope</i> 84 オガワコマドリ <i>L. svecica</i> 85 コルリ <i>L. cyane</i> 86 ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i> 87 ジョウビタキ <i>P. aureoreus</i> 88 ノビタキ <i>Saxicola torquata</i> 89 イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i> 亜種イソヒヨドリ <i>M. s. philippensis</i> 90 トラツグミ <i>Zoothera dauma</i> 91 マミジロ <i>Turdus sibiricus</i> 92 クロツグミ <i>T. cardis</i> 93 アカハラ <i>T. chrysolaus</i> 94 シロハラ <i>T. pallidus</i> 95 マミチャジナイ <i>T. obscurus</i> 96 ツグミ <i>T. naumanni</i> 亜種ツグミ <i>T. n. eunomus</i> 亜種ハチジョウツグミ <i>T. n. naumanni</i>	K 7,8, U*4 K 7,8,9,10, U*4 K 4,7,11 K 7 K 4,7,8,9,13 K 4,7,8,9,10,12,13 K 7,8,9,10,12, U*4 K 1,5,7,8,9,10,12,13, U*4 K 1 K 7,10, U*4 K 4,5,7,10,13 K 8,10 K 7,9, U*4 K 7,8,9,10, U*4 K 7,8,10, U*4 K 4,7,8,9,13 U*13 K 13
ウグイス科 Family SYLVIIDAE 97 ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i> 98 ウグイス <i>Cettia diphone</i> 99 エゾセンニュウ <i>Locstella fasciolata</i> 100 シマセンニュウ <i>L. ochotensis</i> 101 マキノセンニュウ <i>L. lanceolata</i> 102 コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i> 103 オオヨシキリ <i>A. arundinaceus</i> 104 キマユムシクイ <i>Phylloscopus inornatus</i> 105 メボソムシクイ <i>P. borealis</i> 亜種コメボソムシクイ <i>P. b. borealis</i> 106 エゾムシクイ <i>P. borealoides*</i> 107 センダイムシクイ <i>P. coronatus</i> 108 キクイタダキ <i>Regulus regulus</i> 109 セッカ <i>Cisticola juncidis</i>	K 8,10,13 K 7,9,10,12,13, U*4 K 7,9, U*4 K*3,10,13 K 4,*6,7,9,10,11 K 4,7 K 5,7 K 4,7,10,13 K 4,5,7,8,10,13 K 7 K *4,*5,7 K 4,5,7 K 4,7,9,10 U*8
ヒタキ科 Family MUSCICAPIDAE 110 マミジロキビタキ <i>Ficedula zanthopygia</i> 111 キビタキ <i>F. narcissina</i> 112 ムギマキ <i>F. mugimaki</i> 113 オジロビタキ <i>F. parva</i> 114 オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i> 亜種オオルリ <i>C. c. cyanomelana</i>	K 5,7,11 K 4,5,7,10 K 4,5,7,9,10 K 5,7,8,9 K 4,7,8,9,10,13 K 4

科名 及び 種名・学名	出現地と参考文献の番号 (K=上ノ島, N=中ノ島, U=不明)
115 サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i> 亜種サメビタキ <i>M. s. sibirica</i> 116 エゾビタキ <i>M. griseisticta</i> 117 コサメビタキ <i>M. dauurica</i>	K 4,5,7,9,10,13 K 4 K 4,5,7,8,10 K 4,5,7,13
カササギヒタキ科 Family MONARCHIDAE 118 サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	K 4,5,7,8,10,12,13
ツリスガラ科 Family REMIZIDAE 119 ツリスガラ <i>Remiz pendulinus</i>	K 8
メジロ科 Family ZOSTEROPIDAE 120 メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	K 4,7,8,9,10,*12,13
ホオジロ科 Family EMBERIZIDAE 121 シロハラホオジロ <i>Emberiza tristrami</i> 122 ホオアカ <i>E. fucata</i> 123 コホオアカ <i>E. pusilla</i> 124 カシラダカ <i>E. rustica</i> 125 ミヤマホオジロ <i>E. elegans</i> 126 シマアオジ <i>E. aureola</i> 127 シマノジコ <i>E. rutila</i> 128 ノジコ <i>E. sulphurata</i> 129 クロジ <i>E. variabilis</i> 130 シベリアジュリン <i>E. pallasi</i> 131 オオジュリン <i>E. schoeniclus</i> 132 ツメナガホオジロ <i>Calcarius lapponicus</i>	K 5,7 K 4,7,10 K 4,5,7,10 K 9 K 4,7,8,9,10 K 5,7,9 K 5,7,8 K 5,7,8,10 K 7 K 9 K 8 K 9,11
アトリ科 Family FRINGILLIDAE 133 アトリ <i>Fringilla montifringilla</i> 134 カワラヒワ <i>Carduelis sinica</i> 135 マヒワ <i>C. spinus</i> 136 ベニヒワ <i>C. flammea</i> 137 コイカル <i>Eophona migratoria</i> 138 イカル <i>E. personata</i> 139 シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	K 4,7,8,9,10,13 K 4,5,7,8,9,10,12 K 4,7,8,9,10 K 4,7,11 K 4,7 K 4,5,7,8,9 K 4,5,7,9
ハタオリドリ科 Family PLOCEIDAE 140 スズメ <i>Passer montanus</i>	K 4,7,8,9
ムクドリ科 Family STURNIDAE 141 コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i> 142 ムクドリ <i>S. cineraceus</i>	K 4,7,12 K 4,7,8,9,10,12,13
コウライウグイス科 Family ORIOLIDAE 143 コウライウグイス <i>Oriolus chinensis</i>	K 5,7,11, U*4
カラス科 Family CORVIDAE 144 ミヤマガラス <i>Corvus frugilegus</i> 145 ハシボソガラス <i>C. corone</i> 146 ハシブトガラス <i>C. macrorhynchos</i>	K 4,7 K 1,4,7 K 3,4,5,7,8,9,10,12,13